

2款1項7目 事業番号233

移住・定住推進事業費

～伊予市における取組経過と現状～



伊予市未来づくり戦略室

取組の概要

伊予市では、平成22年に施行された自治基本条例で示された住民自治（市民が互いに助け合い地域の課題に自ら取り組むこと）の考え方のもと、それぞれの地域で活動する住民団体が、人口減少や学校存続などの地域課題を解決する一手法として積極的に移住家族を受け入れてきました。そのコンセプトを継承し、更に発展させるため、「市民が主役」の推進体制を構築するとともに活動拠点となる移住ワンストップ窓口を設置し、官民協働により移住・定住施策を推し進めています。

取組の経過

平成27年度

ステップ1

◇課題の確認と解決プロセスの明確化 ～移住・定住推進アクションプランの策定検討～

- 「ますます、いよし。移住定住推進アクションプラン」検討委員会の設置
 - ・検討委員会（6回）
 - ・市民ワークショップ（5回）
 - ・フィールドワーク（3回）の開催
 - ・先進地（山口県周防大島町）視察の実施
 - ・講演会の開催
 - ・JOIN 移住フェアへの出展
 - ・人口推計データ及び空き家 MAP の作成など



- 課題解決プロセスを明示した「ますます、いよし。移住定住推進アクションプラン」の策定
（平成28年3月）



◎アクションプランの骨子

- ・ 移住希望者の積極的な受け入れによる元気な地域づくりを目指す。
- ・ 「ひとを増やすこと」だけを目指においた移住・定住支援ではなく、地域住民と移住者がともに暮らし、助け合い、未来を担っていく「しあわせな地域づくり」を目指す。
- ・ 市民自らがともに暮らす人々を受け入れていく「市民が主役」の移住・定住推進体制を構築する。
- ・ 新たな地域づくりの主役となる人財の発掘にも力を入れる。

平成28年度

ステップ2

◇推進体制の創造・構築 ～移住・定住ワンストップ窓口の設置準備～

- ・窓口設置に向けた協議（4回）
- ・移住に関する勉強会の実施（2回）
- ・先進地視察（高知県須崎市）の実施
- ・JOIN 移住フェアへの出展
- ・伊予市紹介ビデオの作成
- ・移住体験ツアーの実施
- ・空き家調査の実施など



- 移住サポートセンター（移住・定住ワンストップ窓口）の機能・業務内容の決定
- 住民団体、移住サポートセンター及び行政が相互に補完し合う新たな移住・定住推進体制の確立

平成29年度

ステップ3

今回の行政評価対象

◇アクションプランの実現・実行 ～三者が一体となった総合的かつ計画的な施策展開～

- ・移住サポートセンター「いよりん」の開設（平成29年6月）
- ・愛あるえひめ暮らしフェアほか移住フェアへの出展（3回）
- ・移住者の受け入れに向けた市民向け勉強会の開催（3回）
- ・移住者交流会の実施（1回・22人参加）
- ・先進地視察（岡山県高梁市・高知県土佐町）の実施
- ・移住体験ツアーの実施
- ・空き家調査の実施
- ・空き家バンクの開設
- ・移住ガイドブックの発刊

移住ガイドブック

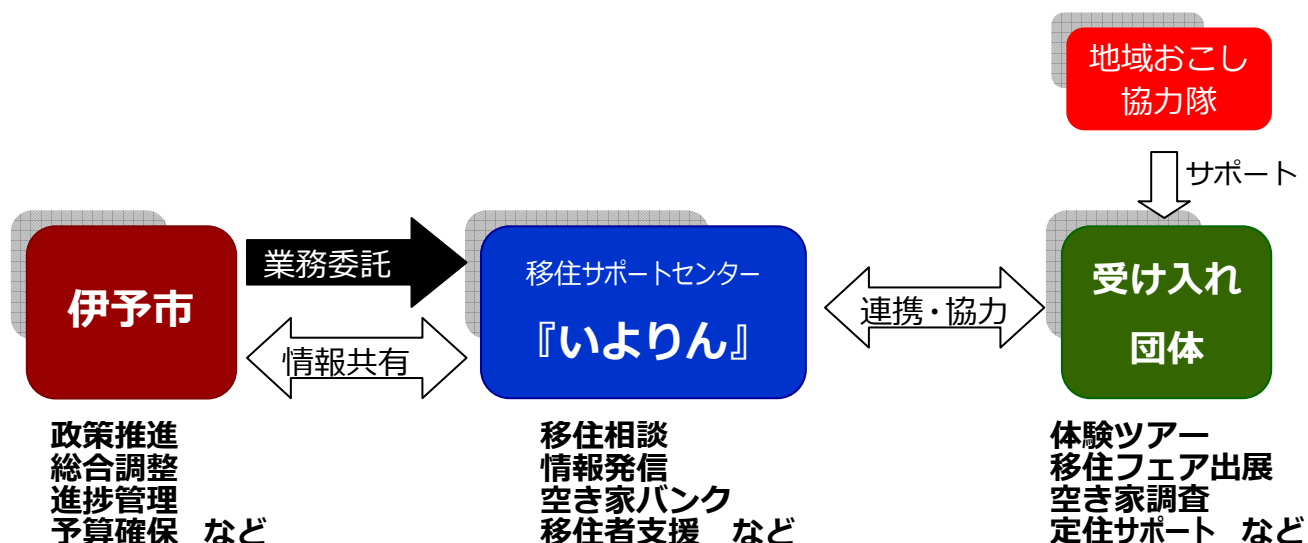


- 移住・定住推進アクションプランの計画期間終了そして移住・定住推進は次のステップへ！

移住サポートセンター「いよりん」



推進体制（イメージ）



各種取組に対する予算執行額

- ・ 移住サポートセンター「いよりん」の運営
 - 委託料 4,633千円の一部（移住・定住相談窓口運営業務委託）
- ・ 愛あるえひめ暮らしフェアほか移住フェアへの出展
 - 旅費（普通旅費） 202千円の一部（職員旅費）
 - 旅費（費用弁償） 213千円の一部（支援団体関係者旅費相当）
 - 印刷製本費 272千円の一部（イベント用ビニールバッグ印刷）
- ・ 移住者の受け入れに向けた市民向け勉強会の開催
 - 報償費 378千円の一部（ゲストスピーカー謝礼）
- ・ 移住者交流会の実施
 - 委託料 4,633千円の一部（移住・定住相談窓口運営業務委託）
- ・ 先進地視察（岡山県高梁市・高知県土佐町）の実施
 - 旅費（普通旅費） 202千円の一部（職員旅費）
 - 旅費（費用弁償） 213千円の一部（支援団体関係者旅費相当）
- ・ 移住体験ツアーの実施
 - 委託料 900千円（移住体験ツアー実施業務委託）
- ・ 空き家調査の実施
 - 委託料 4,633千円の一部（移住・定住相談窓口運営業務委託）
- ・ 空き家バンクの開設
 - 委託料 4,633千円の一部（移住・定住相談窓口運営業務委託）
- ・ 移住ガイドブックの発刊
 - 印刷製本費 272千円の一部（移住ガイドブック印刷）
- ・ その他関係事業
 - 報償費 378千円の一部（事業コーディネーター謝礼）
 - 負担金 100千円（えひめ移住交流促進協議会負担金）
 - 消耗品費、燃料費等 226千円

実施状況

○移住フェア（愛あるえひめ暮らしフェア/東京）



○移住者の受け入れに向けた市民向け勉強会



○移住者交流会



平成 30 年 1 月 5 日 愛媛新聞

2018年(平成30年) 1月5日 金曜日

地 方 (8)

地域づくりの担い手などターゲット

各地で過疎・高齢化が深刻化する中、地域の浮沈を握る鍵の一つである移住。伊予市では、2017年6月に市の委託で開設された市移住サポートセンター「いよりん」（灘町）が移住希望者のワンストップ窓口として活動を本格化させている。関係者は「地域が求める人材に来てほしい」とし、体験ツアーや移住フェアの実施、市民への啓発など積極策に打って出る。

市によると、窓口業務を民間で担うのは県内20市町で初めて。仕掛けたのは11年に東京から地域おこし協力隊として移住した富田敏さん（52）だ。

「行政だと公平性が必要で移住者を選べない。子育て世

伊予市の移住サポートセンター 民間でフットワーク軽く

代や地域づくりの担い手などターゲットを絞れば」と富田さん。地域おこしを担う一般社団法人いよの未来会議の



川口さん(右)がデザインしたキャラクターで招き猫の「いよにゃん」のポーズを取る富田さんら

一部門として立ち上げた。「いよりん」の名称には、地域とのつながりを意味する輪（リング）などの思いを込めた。現在、富田さんがセンター長を、同じく元協力隊員の川口沙矢香さん（34）がカウンセラーを務める。17年度は市から約500万円の委託料

を受け、まちの縁側「ミューゼ 灘屋」に事務所を構えている。11月末までの半年間ほどの実績としては、移住者が1家族、相談件数が39件で「まだまだこれから（富田さん）」。

今後、空き家バンクの設置を検討するほか、体験ツアーを実施しての住民との顔合わせ、市民向けの勉強会などさまざまな角度からアプローチする。市内にある三つの地域おこし団体などとの連携も密に図る。

移住を担当する市未来づくり戦略室は「民間だとフットワークがより軽い」と期待。富田さんは「伊予市は交通の便が良く、山や海もあり理想的な田舎暮らしができる。市全体で大歓迎のムードや空気感をつくりたい」と意欲を語っていた。

問い合わせは富田さん＝電話050（52338）4643。（和田亮）

伊予市
移住促進に向け、住民にできる
ことを考えた勉強会

移住促進 住民側課題は

空き家把握など提案 勉強会



伊予市への移住受け入れに向けた勉強会がこのほど、まちの縁側「ミューゼ難屋」（同市灘町）であり、市内外の35人が、きっかけづくりや地域コミュニティとしてのサポートなど住民レベルでできることを考えた。移住の相談者にワンストップで対応しようと、6月に市の委託で開設された市移住サポートセンター「いよりん」などが初めて開き、同市の元地域おこし協力隊でもある富田敏センタ―長（52）ら4人が講師を務めた。

富田さんは「受け入れてみようと思うところさんが2軒あれば大丈夫」とし、住居として使用できる空き家の把握を始めてみることを提案した。

世代や職業など、どのような人に移住してほしいかを住民で話し合う重要性を強調。移住後にもあいさつや声掛けなど地域で支援するよう呼び掛けた。

県内の移住の現状や双海地域での事例紹介もあった。

（和田亮）

ますます、いよし。



ますます、いよし。

移住・定住推進アクションプラン

（移住・定住推進体制整備事業）

伊予市

はじめに～

ますます、いよし。移住・定住推進アクションプランとは。

平成の合併より10年、伊予市では住民自治のまちづくりを進めてきました。移住促進に特化した事業はありませんでしたが、それぞれの地域で活動する住民団体が、人口減少や学校存続などの地域課題の解決に向けた一手法として移住家族の受け入れに取り組み、成果を上げつつあります。

伊予市ではこれを尊重し、市民みずからがともに暮らす人々を受け入れていく「市民が主役」の移住・定住推進体制を構築します。著しい人口減少への対応策が求められるところですが、「ひとを増やすこと」だけを目標においた移住事業ではなく、地域住民と移住者がともに暮らし、助け合い、未来を担っていく「しあわせな地域づくり」を目指します。市民による移住者の受け入れはもちろんのこと、新たな地域づくり人材の発掘にも力を入れます。また、移住に取り組む地域団体ごとにアクションプランをつくっていき、伊予市は必要な体制整備を行います。

この移住・定住の推進は、「第2次伊予市総合計画」（計画期間/平成28年度～37年度）や、「伊予市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間/平成27年度～31年度）でも重点的に取り組んでいくこととしています。

●目次

はじめに～

ますます、いよし。移住・定住推進アクションプランとは。．．． 01

第1章 移住・定住推進アクションプランの概要．．．．． 03

（1）移住・定住推進体制整備の目的

（2）移住・定住推進体制整備の期間と計画

第2章 移住・定住推進アクションプランの内容．．．．． 07

（1）移住定住ワンストップ窓口の設置

・移住定住ワンストップ窓口の設置目的と方法

・運営体制図

・移住定住ワンストップ窓口の事業内容

移住定住推進アクションプラン検討委員会 名簿．．．．． 11

目次●

第1章 移住・定住推進アクションプランの概要

(1) 移住・定住推進体制整備の目的

伊予市における移住・定住推進体制整備の目的は次の通りです。

- ・ 市民が主体的かつ自発的に移住者の受け入れを行うことを支援する。
- ・ 地域の取組を集約するワンストップ窓口を設ける。
- ・ 移住希望者のニーズに的確に応えられる体制を構築する。
- ・ 移住者が安心して安定した生活を送れるよう、移住後も定住に向けたフォローを行う。
- ・ 新たに移住者の受け入れを行う地域団体の立ち上げを支援する。
- ・ 移住者の受け入れに関わらず、ボランティア活動や地域づくりを行うグループ、団体、地域づくりを志す人材を発掘・発見し、これを支援する。

第1章 移住・定住推進アクションプランの概要

(2) 移住・定住推進体制整備の期間と計画

■平成28年度

- ・移住に取り組む地域団体ごとのアクションプランづくり。
- ・移住定住ワンストップ窓口を設置し、法人化を目指す。

①設置準備の段階で実施すること

- ・設置場所の検討
- ・役割の明確化
- ・権限の範囲
- ・人員の配置
- ・予算の確定など

②事業として実施すること

- ・情報発信
- ・空き家調査
- ・移住体験ツアーの企画・実施
- ・市民への周知
- ・研修の実施

第1章 移住・定住推進アクションプランの概要

(2) 移住・定住推進体制整備の期間と計画

③ワンストップ窓口運営委員会の設置

■平成29年度

- ・空き家、空き店舗等の再資源化を
- ・空き家バンクの開設
- ・情報発信
- ・移住ガイドブックの制作
- ・ふるさと納税の活用
- ・移住お試し住宅の整備

■平成30年度

- ・空き家、空き店舗等の再資源化を強化
- ・移住者向け住宅建設の検討

第1章 移住・定住推進アクションプランの概要

(2) 移住・定住推進体制整備の期間と計画

④年度計画

事業名	28年度	29年度	30年度	31年度以降
ワンストップ窓口の設置	●運営委員会の設置 ●窓口の立ち上げ ●窓口の法人化(目標)			
空き家調査	●調査方法の検討 ●調査員の委嘱【空き家調査】			
空き家バンク	●仕組みの検討	●空き家バンク開設		
情報の発信(ホームページ)	●簡易版の公開	●運用版の公開 ●メルマガの発行		
移住ガイドブック		●取材、編集開始 ●ガイドブック発行		
移住体験ツアー	●●●●●	ツアーの実施(効果測定により継続)		
移住フェア出展・イベント開催		●フェア出展(効果測定により継続) ●イベント開催(効果測定により継続)		

第2章 移住・定住推進アクションプランの内容

(1) 移住定住ワンストップ窓口の設置

移住定住ワンストップ窓口の設置目的と方法

移住・定住推進体制整備事業ではまず移住希望者のニーズにワンストップで対応することのできる窓口の開設を目指す。



この窓口は単に移住者の相談、案内にとどまらず、移住したあとの定住についてもサポートする。また、市内各地の地域づくり団体や地域づくり人材を繋ぐ窓口としての機能も有し、市と地域づくり団体等との間に立ち、それぞれの目的を達することができるよう双方に協力する。



この窓口は、

- ・移住希望者のあらゆる相談ごとに対応
- ・情報発信、インターネットによる情報公開
- ・暮らし、生活情報の提供

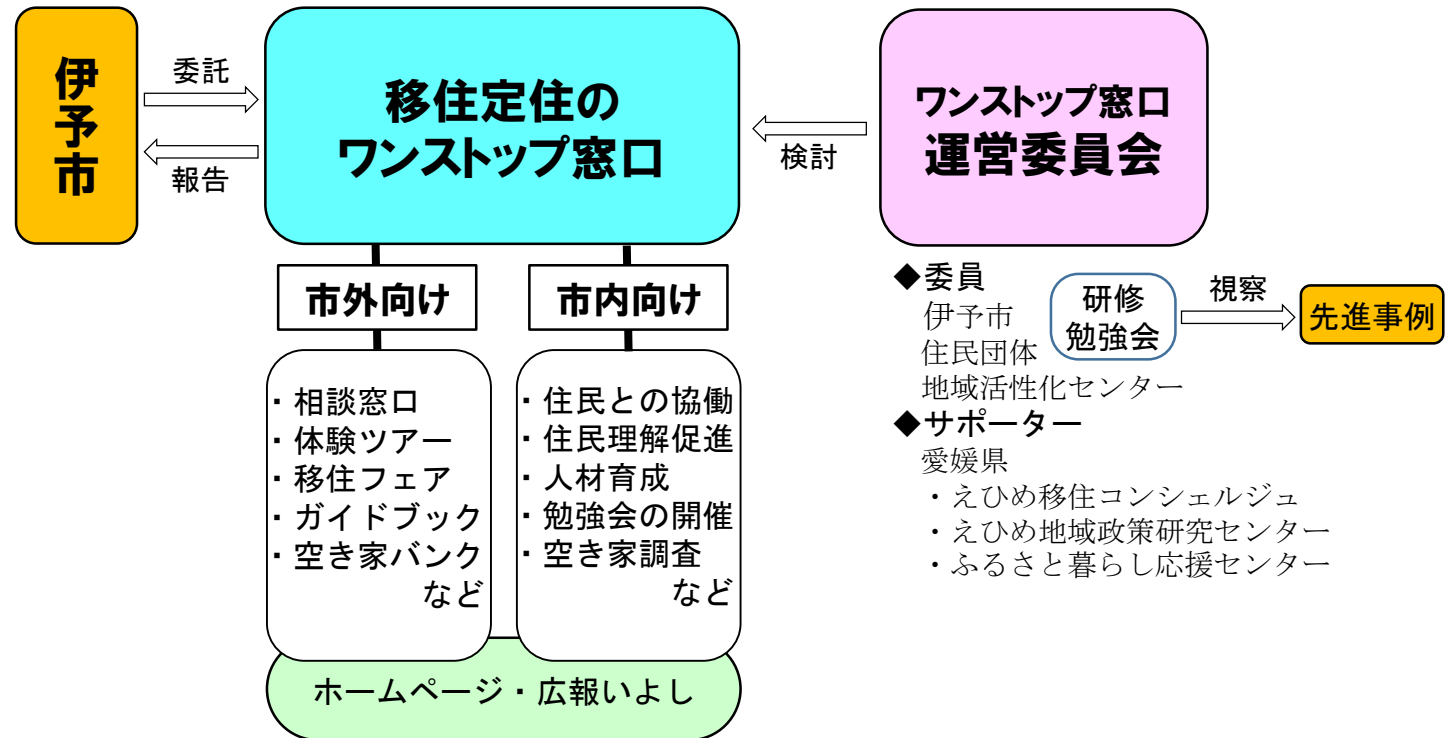
などを行う。



第2章 移住・定住推進アクションプランの内容

(1) 移住定住ワンストップ窓口の設置

運営体制図



第2章 移住・定住推進アクションプランの内容

(1) 移住定住ワンストップ窓口の設置

移住定住ワンストップ窓口の事業内容

- ア 空き家の再資源化
市内に数多く存在する空き家、空き店舗を調査し、地域資源として活用できるように市民に働きかける。
- イ 情報発信
ホームページを開設し、伊予市での暮らし情報、空き家情報の公開、先輩移住者の体験談、各種移住施策の情報を公開する。
また、移住意向者にはメールマガジンを配信し、タイムリーな空き家情報や移住施策などを案内する。
- ウ 移住（定住）相談
移住希望者の各種相談への対応をするほか、移住後も安定した定住に向けてサポートを行う。
- エ 移住体験ツアーの実施

第2章 移住・定住推進アクションプランの内容

(1) 移住定住ワンストップ窓口の設置

移住定住ワンストップ窓口の事業内容

- オ 市民への周知
おもに広報誌を通じ、移住定住事業の周知し気運を醸成する。
- カ 研修や勉強会の実施
人材育成に資する研修を定期的に実施する。



ますます、いよし。移住定住推進アクションプラン策定検討委員会 名簿

※順不同

委員長
副委員長
同

井川一郎	住民自治されだに 会長
谷本照美	株式会社まちづくり郡中 タウンマネージャー
岡田博助	まちづくり学校 双海人
前田 眞	国立大学法人愛媛大学 社会連携推進機構 教授
加賀山誠	愛媛県 企画振興部地域振興局 地域政策課 担当係長
前神有里	一般財団法人地域活性化センター クリエイティブ事業室 室長
小笠原幸男	伊予市 未来づくり戦略室 次長
橘かつら	伊予市 総務部財務課 課長補佐
高橋洋司	伊予市 総務部総務企画課 課長補佐
松田智樹	伊予市 総務部総務企画課 係長
神東利明	伊予市 双海地域事務所 係長
永井啓輔	伊予市 中山地域事務所 主任
本多正彦	伊予市 双海地域事務所 地域おこし協力隊
川口沙矢香	伊予市 双海地域事務所 地域おこし協力隊
田中博行	伊予市 中山地域事務所 地域おこし協力隊
新居田真美	伊予市 産業建設部経済雇用戦略課 地域おこし協力隊
富田 敏	元気いーよプロジェクト 代表
高岡裕太	元気いーよプロジェクト
渡邊健太郎	伊予市 総務部総務企画課 主事

コーディネーター
アシスタント
同

※所属・肩書き等は平成28年2月末現在のものです。

いいよ♡

移住のススメ 愛媛県伊予市



かおりたつまち

各エリアはそれぞれの特徴と気質を持ち、町、山、海と様々な環境での暮らしを楽しむことができます。



わたしたちのテーマは「共に暮らせるなかまを求めて」。

伊予市は企業や民間の地域団体が移住のサポートをしています。

移住の相談も、地域の案内も、移住後に共に暮らす地元の皆さん。

だからこそ出来る暮らしのサポートがあります。

暮らしの疑問や不安に応えてくれる仲間がいます。

どんな環境で暮らすのかだけではなく、どんな人たちと共に暮らすのか。人と人をつないで楽しく暮らしていきたいと思っています。

※ 伊予市は花かつおの生産日本一です。

いよ 伊予 エリア



田舎過ぎず、都会過ぎず
暮らしやすさ太鼓判！

＼地域の方々との繋がりを大切にしてくれる人に来てほしい！／



私たちがサポートします！

伊予市第3セクター
株式会社まちづくり郡中

郡中まち元気推進協議会

郡中まち暮らしを
はじめませんか

「郡中まち元気推進協議会」は、魅力あふれる郡中を一人でも多くの方に伝え、実際ここに来て良さを実感してもらう。そこから移住につながることを目標に、移住促進の活動をしています。

私たちの活動を支えているのは「郡中を愛する気持ち」です。今後もふるさと郡中を愛する

方々の力を借りながら、活動を続けていきます。

ぐんちゅう

郡中地区 ってこんなところ！

いきなり田舎暮らしに飛び込むのは不安。そんな人に向けて、伊予市郡中では、都会と田舎の中間点である「**まち暮らし**」という新しいスタイルを提案しています。

- 海・山・里の幸に恵まれた新鮮な食材と自然環境の豊かなまち。
- 商店などがたくさん営業している、お買い物に便利なまち。
- 市役所や銀行、郵便局などがまちなかに立地し、病院も多く、**医療・福祉が充実**したまち。
- JRと私鉄の駅が合わせて3つあり、**松山空港まで車で20分、高速インターまで車で8分**、県内でいちばん交通の便利なまち。



株式会社まちづくり郡中 <http://www.machidukuri-gunchu.jp/>

郡中あるある ① 花かつおの生産工場が多く、まちなかにかつおぶしの香りが漂っている。



谷上山展望台よりのぞむ郡中地区

● 移住者の声・地域への思い

2017年、郡中開町200年祭を迎えた7月、私は京都市より移住しました。” 地方暮らしへの憧れ” ” 地方の歴史や文化への興味” 等々の想いが募る中各地の移住フェアに参加し、「郡中」と巡り会いました。体験ツアーで現地を見て、町の素朴さと歴史の深さ、暮らし易さが心に残り第一候補に。ところが関西で「郡中」の存在を探しても、本にも載っていない、誰も知らないという現実と直面。その「もどかしさ」が心を突き動かしてこの地へ移住しました。

豊富な資源が原石として眠っている「郡中」。この町で暮らしたいと移住してこられた方々と、町づくりを話し合い、地域住民を主役に、「住んでよし」「立ち寄ってよし」「聞こえよし」の町をこれからも民力で造る。これこそが郡中の未来像だと確信しています。



吉田さん
2017年7月 京都より移住

● 年間イベントカレンダー ●	
3月	郡中ひな祭り
3月	郡中味の体験ツアー (ひな巡りツアー 日帰り)
3月下旬	女性の祭典 「五色姫復活祭」
6月土曜	土曜夜市
7月下旬	伊予彩まつり 住吉まつり
9月	郡中味の体験ツアー (いも炊きツアー 日帰り)
11月	郡中移住体験ツアー (1泊2日)
11月	郡中いっぷく亭まつり

②地元の高校生が作る「名物」伊予農クッキー。その販売と聞くと、とりあえず行列に並んでしまう。



子育て世代・地域活性化を担う仲間に来てほしい／



私たちがサポートします！

住民自治されだに

一緒に新しい風を吹かせる
仲間になりませんか

少子高齢化と人口減少の著しい地域で「ふるさとを守りたい」という熱い思いから住民全戸が加入する「住民自治されだに」が生まれ、地域が1つの家族となりました。移住者と住民をつなぐ存在、というより全住民の代表としての

立場で移住受け入れのサポートをしています。

されだに 佐礼谷地区 ってこんなところ！

佐礼谷は「住民が主役となる地域づくり」を行う**住民自治組織**があるという、とても珍しい地区です。どんな地域にしたいか、どんな地域を残したいか、住民がまちづくりを計画し実践しています。**地域のつながりはとても濃いもの**があります。

また、**松山空港から1時間かからない**立地にもかかわらず、景観汚染の少ない古き良き日本の風景が残り、中世の城跡や山吹御前を筆頭に多くの伝説の残る風光明媚な地域です。

中心地には**小学校・診療所・ガソリンスタンド・JA・小規模スーパー**があり、震災や災害といった万が一に備え、講習会も実施して地域内からの死者を出さない取り組みも行っています。**佐礼谷小学校校舎内に佐礼谷学童クラブ**があり、月額3,000円で18時まで安心＆安全に託児を行っています。



のどかな山あいの佐礼谷地区

● 真の人間らしい生き方が みつかる！

田舎には都会にないものがいっぱいあります。あくせくした生活から離れ、人間の良さ、人情の深さ、人の愛とも触れ合うことが出来る田舎で、今一度人生を見直してみてもいいかもしれません。

私たちの地域は、小学校と地域が一体となり、子どもたちも地域活動に積極的に参加し、体験し、一人一人が主役となり生き生きと暮らしています。私たちは、こんな佐礼谷が大好きです。

”佐礼谷が好きや!!”を合言葉にこれから一緒に佐礼谷を盛り上げていける仲間を待ってます！

● 年間イベントカレンダー ●

- 6月上旬 ほたる祭り
- 6月下旬 町内バレーボール大会
- 7月下旬 なかやま夏まつり
- 8月21日 佐礼谷納涼のタベ
- 9月23日 なかやま栗まつり
- 9月下旬 運動会
- 10月 中山町ソフトボール大会
- 10月中旬 秋祭り
- 11月中旬 されだにきてみん祭
- 12月初旬 佐礼谷入口の花壇整備
- 12月中旬 小学校親子活動
- 2月初旬 ふるさと祭り
- 3月下旬 峠のひな祭り
- 3月上旬 黄色い丘の菜の花まつり

佐礼谷小学校 <https://saredani-e.esnet.ed.jp/html/>

黄色い丘Facebook <https://www.facebook.com/saredaniyellowhill/>

↑ みんなが楽しく集まれる場所を目指し、昔みかん畑だった耕作放棄地を再開拓中！

住民自治されだに <http://www.saredani.net/> **(ブログ)** <http://www.saredani.net/blog/>

双海 エリア



海と山が背中合わせ
しずむ夕日が立ちどまる町

地域の文化やコミュニティを大切にしてくれる人に来てほしい



私たちがサポートします!



お子さまに「ふるさと」
足りてますか?

愛するふるさと双海町をより暮らしやすい町へ!をモットーに学びと実践に取り組む地域団体です。多種多様な方が集まり、地域と移住者のクッションとして間をつなぐことをいちばんの支援としています。暮らし目線のサポートならお任せください!

ふたみ

双海地区 ってこんなところ!

瀬戸内の西のはすれ、穏やかな伊予灘を眼前に背後には豊かな里山が広がる双海エリア。その中でも最も少子化が進む翠地区には、**県下最古の現役木造校舎をもつ翠小学校**があります。また、**日本一海に近い駅と言われたJR下灘駅**、**海遊びができる道の駅**など、フォトジェニックなスポットに囲まれた風光明媚な農漁村には、海辺気質なのか愉快で大らかな方がたくさん! 訪れる方々を明るく迎えてくれます。

ただの小規模校じゃないんです!

旧双海町は人口3,900人ほどの小さな地区ですが、少人数の個性的な小学校が3つもあります。なかでも翠小学校は伊予市の市街地からの校区外通学制度もあり、近隣市街の子、地元の子、大都市から移住してくる子など、多様な子どもたちが集い、また地域に開かれた学校は、地域密着でのびのび育ちながらも、お互いの様々な価値観も認め合える学校生活。

是非一度この子育て環境をご自身の目でご覧ください。



県下最古の現役木造校舎をもつ翠小学校

地域の仲間として受け入れたい



移住の受け入れとは、若い家族が来てくれて嬉しいというだけではダメなんです。それなりの覚悟を持って飛び込んできたファミリーが幸せな生活を送れる環境を整える責任があると思う。それは移住してくる方に合わせるのではなく、私たちが古くから馴染んでいる田舎ならではの「互助」の輪をひろげ、共に同じ地域に住む人間として助け合って生きていく「覚悟」を持って受け入れるということ。

10年、20年後に「ここに住んで良かった」と心から感じてほしい。

そんな暮らしとなるように私たちは共に歩んでいきたいです。

※ ということを心に秘めながら、普段はそんなマジメなことを言わずにこの笑顔でフランクに付き合ってください☆

年間イベントカレンダー

- 4月中旬 春の例祭
- 5月中旬 ソフトボール大会
- 6月初旬 ほたる祭り
- 6月中旬 ソフトバレーボール大会
- 7月中旬 ふたみの夏祭り(花火)
- 8月初旬 トライアスロン大会
- 9月初旬 夕焼けプラットホームコンサート
- 9月初旬 しもなだ鯉まつり
- 9月下旬 市民体育祭
- 10月23日 地方祭(学校休み)
- 11月上旬 公民館まつり(文化祭)
- 12月23日 空からサンタがやってくる
- 1月上旬 初春水仙まつり
- 2月初旬 豆まきイベント
- 3月初旬 しおかぜウォークなのはな大会

※毎月最後の土曜日は軽トラ市

翠小学校 <https://iyo-midori-e.esnet.ed.jp/html/>

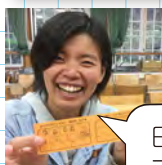
まちづくり学校 双海人-ふたみんちゅFacebook <https://www.facebook.com/Futaminchu/>



独特の鍋焼きうどんは
ランチに欠かせない!



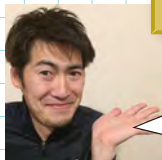
玉子でとじない甘辛の
割り下が絶品のカツ丼☆



日本一インスタ映える景色と
コーヒーでホットひととき

移住者が選ぶ!
**いよしの
おいしいの**

まさかあの高級魚が?!
激ウマお手軽 鰹カツバーガー!
はち



移住した方が始めた
「ぱんや107」のパンは
食べたしたら止まらない!



トマトジュースが練り込まれた
トマトうどんはさっぱりして
絶妙な美味しさ♪



どこのお店かは現地で探してね!

移住ステップガイド ～移住までの流れ～

①なぜ移住?をよく考える

- ・移住の目的は?
- ・移住先に求めることは?
- ・いつまでに移住したいか
- ・家族と共有できているか
- ・資金面の問題はないか

移住で失敗をしないために、しっかり
考え検討することはとても大切です。

②いよいよ「いよりん」に相談

- ・仕事のこと ・住居のこと
- ・子育て ・自然環境
- ・生活コスト ・医療福祉
- その他なんでも、私たちも
一緒に考えます。

ご相談はこちらから。

移住 いよりん

④住居と仕事を決めましょう

- ・移住に向けて多くのことを
決めていきます。
- ・この作業は本当に大変です。
- ・私たちもできる限り手伝います
ので頑張りましょう!

準備が整ったらいよいよ引っ越し、
すぐに新生活がスタートします。

③候補地の決定と現地見学

- ・候補地が決まったら現地の
地域団体をご紹介します。
- ・必ず当地にお越しいただき、
住環境や周辺の状況を納得
いくまで確認してください。

ぜひ地元の方と会話をしてください。
移住後の暮らしがイメージできます。

移住後もしっかりサポート!

移住は引っ越し完了がゴール
ではありません。そこがようや
くスタート地点。「いよりん」で
は移住後も皆さまをしっかり
サポートし続けます。

移住者交流会を定期的開催中。
つながりをつくって暮らしを豊かに!

HAPPY!!





愛媛県伊予市移住サポートセンター「いよりん」

<http://iyorin.jp/>

伊予市では地域のまちづくり団体と受け入れ地区の
住民が皆さまのハッピーな移住をお手伝いします

----- 「こんな暮らしがしたい」を実現しませんか -----

新しい場所で、新しい暮らしを始めてみようという人生の大きな決断を目の前にされている皆さま。

そんな皆さまのさまざまな不安や悩みをともに考え、受け入れる地域も、移り住む皆さまも、ともにハッピーな新生活が迎えられるようサポートするために「いよりん」は生まれました。

----- 民間による移住相談ワンストップサービス -----

愛媛県伊予市では数年前より、地域住民が主体となって移住の受け入れを行ってきました。これを行政である伊予市が全面的にバックアップするかたちで、民間による移住受け入れのワンストップサービスとして皆さまのお手伝いをします。

わたしたちのテーマは「共に暮らせるなかまを求めて」。皆さまとの出会いを楽しみにしています。

〒799-3114 愛媛県伊予市灘町 123 まちの縁側『ミュゼ灘屋』内
JR 伊予市駅・伊予鉄郡中港駅より徒歩 3 分

MAIL iju@iyorin.jp

TEL 050-5238-3606 (移住相談専用ダイヤル)

移住 いよりん

